

# 「複合性局所疼痛」知って

## 難治性神経障害 手術経て回復に道

### 音更の安達さん

【音更】「複合性局所疼痛(とうつう)症候群(CRPS)」を患った音更町の安達弘尚さん(36)が、この疾患を多くの人に知ってほしいと呼び掛けている。帯広の総合病院を複数受診しても明確な治療方法が見つからず、半年後に管外で手術を受けた。「痛みが和らぎ、つらい時期に病院などで味わった『分かってほしい』との思いを地域に伝えたくなった。同じ状況で困る人が少しでも減れば」と願っている。

管内で運送業の仕事をする安達さんは昨年4月、トラックの荷台から落ちて右足を負傷。最初にかかった帯広の総合病院では踵骨(とうこつ)前方突起の骨折という診断がおりた。3カ月で回復しリハビリができる見通しだったが、7月になり、ギプスが外れても痛みはいっこうに引かなかった。



激しい痛みで襲われた右足を指さす安達さん。今は釧路でリハビリ入院をしている

管内で運送業の仕事を...  
「分かった」と願っている。

が「続いた」という。8月にセカンドオピニオンを得るため、市内の他の総合病院

に。札幌の医療機関を紹介され、簡易検査でCRPSの見方が強まった。

「麻酔科やペインクリニックを受診した方がいい」と言われ、十勝に戻った安達さんは「市内を中心に幾つもの病院やクリニックに電

話したが、看護師から『そのような症状は分からない』と言われたりした。足を切断した方がましなのではとも考えた」と話す。

最終的に同分野で専門的な知識を持つ釧路三慈会病

**CRPS 難治性の神経障害性疼痛。**  
骨折、捻挫、手術などが原因となりやすい。体の損傷後、患部は治癒したはずなのに痛みが残る。激しい痛み、多感、体のこわばりなどの症状が出る。日米の研究などで罹患(りか)率は10万人に5〜20人程度とされる。

院(釧路市)にたどり着いた安達さんは、昨春秋、脊髄に微弱な電流を流して痛みをコントロールする脊髄刺激療法に出会い、体の中に刺激装置を埋め込む手術を受けた。痛みがかなり軽減し、回復の道筋が見えてきた。

「早く仕事に復帰したい」と今月から釧路でリハビリ入院中の安達さん。「同じ痛みで苦しんでいる人は十勝にもいるはず。こういうことが、症状もあると頭の中にとめ、治療に生かしてもうえれば」と話す。(奥野秀康)

### 小説など応募条件変更

帯広市民 文芸誌編集委員会 「より専門誌に」

帯広市市民文芸誌編集委員会(五嶋純有委員長)は文芸誌「市民文芸」の小説部門の募集について、「小説A」を従来の4000字詰め原稿用紙80枚以内から同60枚以内に変更する。

12日に市図書館で開いた今年度の編集委員会で決めた。

「市民文芸」は十勝管内在住者や過去に住んでいた人を対象に作品を募集。年に1度発刊し、優秀な作品には市民文芸賞などが贈られる。ジャンルは①小説②戯曲③シナリオ④文芸評論⑤随筆⑥ノンフィクション⑦詩⑧短歌⑨俳句⑩川柳。

このうち小説部門はA(4000字詰め80枚以内)、B(同50枚以内)、C(同30枚以内)だったが、Aを60枚以内に変更し、Bを廃止する。五嶋委員長は「短くすることで質的向上を目指す」としている。

また、「何首(句)送ればいいのか迷う」などの意見

2019年(平成31年)4月15日(月曜日) 付 十勝毎日新聞に掲載

当院のペインクリニック外科を担当している西池聡先生が行うSCS(脊髄刺激療法)を実際に受けられた音更町の安達弘尚様が、4月15日付けの十勝毎日新聞に取材を受け掲載されたことをご連絡をいただきました。

安達様は「複合性局所疼痛」と分類される難治性神経障害に長い間お悩みでした。このような難治性疼痛に苦しむ患者様は、複数の診療科を受診してもなかなか原因や治療法が見つからず、また、症状も個人差が激しいため相手に理解されない苦しみを味わっている方が数多くいらっしゃいます。

痛みの専門外来としてまずはお気軽にご相談ください。

釧路三慈会病院 麻酔科部長 西池 聡

■日本麻酔科学会認定麻酔科専門医・指導医

■日本医師会認定産業医